

プログラム名 (40字以内)	脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い		
団体名/所属	教育学部 心身発達科学専修身体教育学コース		
活動区分	研究室体験活動	希望する選考方法	書類審査のみ
募集人数	6人	選考対象	大学院学生を含まない
活動方法	オンラインを活用しつつ現地活動を行う		
参加者に求めるもの	特になし		
活動期間	2026/8/1(土)~2027/3/31(水) 具体的には研究室ごとに応相談	主な活動予定場所	本郷キャンパス教育学部棟
プログラム実施の目的	<p>・研究の現場の雰囲気を体感し、研究者の日常について具体的なイメージを掴む。・(既に自分の研究を行っている学生にとっては)異分野の研究に触れる。・大学院などの進路を検討する機会・材料とする。</p>		
具体的な内容(800字程度)	<p>かつて心と身体(からだ)は別々のものとして扱われてきましたが、脳科学をはじめとした近年の科学の目覚ましい発展によって、それらが文字通り、切っても切れない関係にあることが明らかになってきました。そして、健やかな発育や楽しく実りある学習、また生涯通しての健康維持には、心と身体を共に良い状態に保つことが重要だと考えられるようになってきています。とはいえ、具体的なことはまだ殆ど分かっていません。ちょうど今、生命・身体についての基礎的理解が進んできたおかげで、いよいよ、心と身体はどのような関係にあるのか、それらを良い状態に保つには、どのような方策が考えられるか、といった問題に科学的に迫ることの出来る時代が到来したところなのです。私達のコースでは、そうした問題に対して、様々な角度から研究を進めています。</p> <p>この研究室体験活動「脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い」では、そのような私達の日々の研究の雰囲気を体験して頂きます。具体的には、興味に応じて、教員や研究員・大学院生と研究の議論を行う、研究ミーティングや論文紹介に参加する、(希望する活動内容によっては)実験に立ち会うなどのアクティビティを体験して頂く予定です。また、たとえば下記のようなテーマに関して、レクチャーや実習などを行うことも考えられます(参加者の希望と、コース側の準備状況によって、テーマは変わり得ます)。さらに希望と状況によっては、実際の研究に能動的に関わって頂くことも考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無意識に腕が覚える:運動学習の脳内モデル ・脳はいかに発達するか:発達脳科学 ・睡眠の仕組みと意義:睡眠科学 ・学習と情動の脳基盤およびその精神疾患との関わり ・脳は方程式で理解できるか:理論神経科学 <p>これらの活動を通して、科学の生まれる現場の雰囲気を体感し、研究者の日常について具体的なイメージを掴んで頂けたらと願っています。また、後期課程で、卒業研究など、既に自分の研究を行っている学生にとっては、異なる分野の考え方・研究の仕方に直接触れる良い機会となり、場合によっては、大学院などその後の進路を検討する機会にもなり得るでしょう。活動日時は、研究室ごとに参加希望者と打ち合わせて決定することを予定していますが、希望者が多い場合など、こちらから日時を指定することもあり得ます。</p>		
【総額】参加するための費用	本郷までの交通費の他は特に負担はない予定です。ただしもし状況に応じて(参加学生本人の希望により)学会などに参加することになった 場合には別途費用が発生することがあります。		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	(上記参照)		
【内訳】参加するための費用(交通費)	(上記参照)		
【内訳】参加するための費用(その他)	(上記参照)		
奨励金額(予定)	0円		
備考	特になし		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト			
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)	http://www.p.u-tokvo.ac.jp/~tkweb/		
この企画に対する担当者(応募団体)の参加の有無	参加する		